

近代の思想觀

加藤智學

日本が政治の形態を獨逸に模倣しようとしたのは、獨逸の聯邦國民の強壓形式を學んで、當時の官僚政治の組織を維持せんとする一派の態度で有つたが、日本の市民階級は此の形式を無視して、實踐的には其の政治組織を寧ろ英國式に進展せしめたので有つた。『カイゼル』の獨裁に依つて遂に帝政の破滅に迄で立ち至つた、獨逸の形式を採り乍ら、日本は其の市民社會の發達に、より良く順應する事に依つて官僚や軍國貴族から、其の政治的支配から剝奪して、或る程度まで市民政黨、資本金社會の政治機構の覇權を確立せしめた。

日本の政黨は本來決して、二大政黨主義に進む必然性を持つたとは言へないので、寧ろ階級的、又は國人的の局部利害からの分立を生ずる傾向を、より多く持つて居たのだが、貴族・軍人・官僚等が是等の分立を利用する程、政治的の特定地位を有するに至らずして、却つて市民政黨に解消する傾向を取つたのと、未だ我が國の資本家が當初から二大財閥に分かれて、官僚政治時代から政治家の分野は、此の二大財閥を中心として成立して居たので、市民政黨は自然二大政黨主義を取るに至つた。

此の事情は我が國の政治組織の表面の形態を、甚しく純政黨主義たらしめ、政黨以外の勢力は全く

政治的雰圍氣の外に、置かれてしまつた様な外觀を呈せしめた。英國に於ける様な意味の政黨政治は、今日に於てさえ成立して居るか何うかは問題で、従つて又未だ政黨絶對主義が、決して成立して居る譯ではないのだが、最近に至つて外觀上日本の政治は全く政黨專制の形となり、人々も亦政黨萬能を稱するに至つた。

是れに就いては前述の如く、思想的には貧弱だが實踐的に勇敢で有ると言ふ、日本人の特長が可なり作用して居る様に思はれる。歐米に於ける近代國家の、政治家・教育家・實業家等は彼等の國の資本主義の發達に伴つて、市民階級の經濟の組織、其れに伴ふ政治の組織の近代化を、思想的に、學問的に根底づけ、經濟思想及び政治思想の其れ／＼の体係に於ける發展をさげ、市民的科學及び哲學は、政治家・實業家等の常識に成つて居ると言ふ有様で有るが、日本に至つては、明治年代以來其れ等の先進國の思想の鵜呑みすらも、甚だ充分で有ると言はれず、殊に政治家・實業家の間に歐米の人々の様な人は、明治より昭和の今日を通じて、田口卯吉氏一人位のもので有ると思ふ。

鵜呑み主義の専門學者は幾等も有つたらうが、政治家にして近代の思想を、常識として持つて居る英國の其れの如きは、指を屈するにも足らぬ程で有る。随つて日本人は近代思想の日本化されたものに至つては、法律の條文以外には何れも持つて居ないと言つて良い。資本主義國家の發展した自由主

義思想や、其れ等の政治學者は鵜呑みさえも、充分に出來得たとは認められない。日本人は實踐に於いては無學的の商人が、資本主義の發展に於いて、先驅的で有つた様に産業組織や、政治組織の各方面に於いて先進諸國を驚かした程の、發展を遂げた日本の政黨政治は東洋と言はず、世界大戰後は其れが發展過程を取りつゝ有る度合に於いて、亞米利加に次ぐものさえ認められた近代思想に於いては、何等先進諸國は勿論後進の支那をさえ驚かすに足る者を持たない。日本も實踐的には殆んどあらゆる方面に於いて、世界を驚かすに成功したと言はなければなるまい。

是れは全く其れで良いのである。資本主義國家は何等の思想哲學を生み出す事なくとも、大規模の産業組織を生み出す事に依つて、充分發展する事を得るもので有る。思想や哲學は其の結果として生み出したもので、其れ等の觀念形態から、資本主義國家が生み出るものではないと思ふ。然し、或る程度に發達した資本主義國家は、場合に依つては其の思想的貧弱の爲に、思ひがけぬ失敗を蒙る事が有ると言ふ事は、豫め知つて居らねばならぬ。先年の例を取るに、從へ偽善の言ひ合ひで有るとは言へ、國際聯盟に於ける各國政治家の演説の如きも、其れに幾分思想的背景を持つた様な体裁を與へる事に依つて、大いに其の無内容の所説に有力な響を與へ得るので有ると、思はれる様な意味の記事を新聞紙上に見た。其の点に於いて思想敗けのして居る支那の代表者の演説は、寧ろ歐洲的で有り、其れ丈

又其の音聲を聞いて居る聽衆を感服せしむる力があるが、日本の外交官や政治家の、斯かる國際會議に於ける演說に至つては、「如何にも本國に於ける日本人一般の思想的背景の貧弱さを、外國に廣告して居るとしか思はれない様な無思想的現實論である、」と或る政治家は嘆いて居る。故に是等の議論は、空疎な言論の展觀會に過ぎないと言へば是れまでだが、其れ等の言論に思想粉飾を加ふる事は、其の裝飾的價値の爲に必要なのである。恐らく日本人の演說等は單純化に實用的で、全然文化的威赫力を持つたものは有るまい。

日本人は古來戰場に於いては、小櫻緘の鎧や金の鍬形打つたる兜を纏うて、盛んに敵を文化的に威赫したものだ、近代の國際的論戰に於ては、日本人は全く犢鼻褌一つで獲物を振り廻して居ると言ふに恰好で有る。従つて時には全く醜態とさへ見下げられる。實踐的に拔群で思想的に零で有ると言ふ日本人は、斯かる場合往々損耗を免がれないのである。滿洲事變以來思想的に今日の現狀を見るに至つた事は、思想潮流の影響をも充分に加味されて居るとも思はれない事もないが、又一面能化の指導其の宜きを得ざる結果では無からうか。思想騒亂の渦中に巻き込まれて、懊惱する吾々御互が六百五十有余年の昔にかへり、大聖人の折伏逆化の御精神に立ちかへり、妙法五字の光明に照らされて、『鳥と虫とは啼けども涙落ちず日蓮は泣かねども涙ひまなし』との大慈悲を以つて、聖人一期の大誓願た

る立正安國の實現へと、向上の第一歩を踏んだならば、外敵何等恐るゝに足らん。内憂何んぞ恐れんや、怨敵忽にして撃退されん。今宇宙に充滿せる非常時日本の叫も、斯くして驅逐且つ解消せられ危機に瀕せる日本は、愈々大山の安きに置かるゝに至るで有らう。

世界人類の救済的指導職なる最高位に存在せる、吾々宗教家の墮落が莫露せられ、社會的に公然と非難攻撃を受けつゝ有る事實に依つても、最高權威者たる宗教家それ自身が撲滅を謀つて居る様な、醜態を現じて居る事は非常時日本の更生初期に於いて、最も恥ず可き重大問題で有ると共に、最高權威者たる可き宗教家の嘆かはしき一事である。斯くの如き非常時日本を生み出したる、其の責任を問ふならば、墮落せし國民各自よりも、寧ろ國民を斯くまで墜落させた所の宗教家で有ると、斷言しても決して過言ではないと思ふ。

『マルクス主義』の撲滅を謀り、純正宗教の確立に依つて日本の現状を救済するには講演或は説教或は藝術等の布教傳導を以つて、國民の自覺を促す前に先づ宗教家自身の覺醒を謀り、而して後國民の自覺を促す事が宗教家本來の目的で有り、又非常時日本の覺醒期に際して、最も急務とする問題であると思ふ。随つて宗教家自身の覺醒に依つて、所化の衆生は自然に其の域に達するものと信ずる。近代思想の渦中に懊惱する彼等は、今將に雙手を舉げて最高權威者たる、宗教家の覺醒と救済とを期待し

て居る。斯くの如き重大なる一事の實踐者こそ、吾々青年宗教家を置いて他に誰あらう。

立てよ!! 青年宗教家!!! 目覺よ!! 今や盛んにサイレンは鳴り響く!!!

犠 牲

田 川 義 烈

日本國民は昔から犠牲の精神が非常に根深く植え付けられて居る、これは日本人の國民精神として廣く世界に誇るべき美點である。

犠牲の精神を尊ぶ事は單に我國ばかりに限られず、他國でも皆同様であるらしい。然し中でも日本人は殊更らに熱烈であるらしく考へさせられる。楠正成も、西郷南洲も、廣瀬中佐も、等しく人々から尊敬さるる所以は何處であるか、それは言を待たず、これ等の人々の心の奥底に存する犠牲の精神の然らしむるものである。

日蓮上人が立正安國論を献上なされ、「大難四ヶ度小難しばし」の迫害をも「我不愛身命」と申されて、あへて忍辱せられたのも徒らに行はれた瘠我慢では無い。これ大聖人が社會國家を救濟せんが爲めの犠牲的大精神の奔騰にほかならないものである。